

【中期目標期間評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
IV	中期目標を上回っている	目標の達成状況が 100%超
III	おおむね中期目標どおり達成している	目標の達成状況が 90%超 100%以下
II	中期目標を下回っている	目標の達成状況が 60%超 90%以下
I	中期目標を大幅に下回っている	目標の達成状況が 60%以下

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価	評価委員会の検証																	
			自己 評価	評価 提案	意見															
04	1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 地域の医療機関それぞれの特性を生かしながら機能分担し、患者が病状に即した医療を受診できるよう地域全体で協力し、ケアしていくため、地域の医療機関との連携及び協力体制の更なる充実を図るとともに、「地域医療支援病院」として、紹介率（75%以上）、逆紹介率（95%以上）の安定的な維持を目指す。 病診連携における紹介患者の診療予約、画像診断予約及び当日の診察に関しては、迅速に対応する。 また、医療機関を定期的に訪問することにより、開放型病院登録医療機関及び登録医師数の拡大を目指し、「病病連携」や「病診連携」をさらに推進する。 2 地域連携パスの整備普及 現在運用している地域連携パスの有用性を検証し、運用実績を向上させるとともに、関係機関と協力して各種疾患に対する地域連携パスの更	* 近隣の医療機関等との役割分担に関する事項 「地域医療支援病院」として地域医療の中核的な機能を果たすため、地域の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による協力体制を更に充実させ、中期計画の目標である紹介率 75%以上、逆紹介率 95%以上の達成を目指している。逆紹介率については継続して達成できており、紹介率については令和5年度までは達成できていなかったが、開業医への積極的な訪問により徐々に増加し最終年度の令和6年度には 78.3%となり、目標を達成できた。 加えて、より適切な退院、転院を進めるために、医療機関や介護・福祉機関を定期的に訪問し、各医療機関等の機能や稼動状況等を把握するとともに「顔の見える連携」を目指した。 開放型病床登録医療機関及び登録医師数の拡大を目指し、新規に開設した医療機関に対する働きかけを行った結果、医療機関数、医師の登録数ともに、増加傾向となった。医療機関からの WEB を活用した外来予約について、従来は小児科のみの運用だったが、令和5年1月より全診療科に拡大した。対象拡大以降の予約受付件数については、地域の医療機関への積極的な広報活動やシステム設定等のサポートを行ったことで、大幅に増加している。 また、地域連携パスに関する院内への周知、定期的なモニタリングを行うとともに、院内外の相談窓口として連絡調整を行うことで、現在 17 種類の運用を行っている地域連携パスの普及に努めたが、入院患者の高齢化に伴い、合併症を多く保有している患者の増加に加え、術後の状態も不安定な患者が多く、当センターで引き続き管理する症例が増加したことから、適用数は減少した。 岐阜医療圏地域コンソーシアムについては、定期的に開催されるワーキング会議（治験、ゲノム、研修、薬品等契約、人事、医師確保、病院薬局連携、災害等）に当センターの各分野の担当者が参加し、その結果を構成医療機関の院長による運営委員会にて報告、協議する等、効率的で質の高い医療体制の構築に向けて連携の強化を図った。 ○ 紹介率・逆紹介率 単位：％ <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>77.3</td><td>70.0</td><td>71.9</td><td>67.2</td><td>74.3</td><td>78.3</td><td>+1.0pt</td></tr></table>	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	紹介率	77.3	70.0	71.9	67.2	74.3	78.3	+1.0pt	III	近隣（県総合医療センターの守備範囲は岐阜医療圏と明記してあります）の医療機関との役割分担を明確にするところがあるが、役割分担とは自院が何を担当し、自院が担当しないことは他院に依頼することを意味します。それは疾患別、重症度別でそれぞれ相手方と相談して行うべきものです。そのテーブルが、地域医療構想調整会議です。岐阜圏域のその会議で、県総合医療センターの役割分担に関して論議されたことはないと思います。したがって、十分に役割分担・連携がなされているとは言えないと思います。 地域連携パスの利用は、好ましいことですが、その利用が役割分担ではないと思います。 この問題に関して、私は再三質問し、考慮していただ
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)													
紹介率	77.3	70.0	71.9	67.2	74.3	78.3	+1.0pt													

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							自己 評価	評価委員会の検証																																																																																																																																											
										評価 提案	意見																																																																																																																																										
	なる改良及び充実を図り、院内での普及及び活用に努め、達成率を高める。 3 疾病予防の推進 糖尿病患者に対する重症化及び合併症発症の予防や、心不全患者に対する重症化予防に取り組む。また、健康祭や糖尿病教室等の各種行事を通じて疾患予防の周知に努める。 4 地域の介護・福祉機関との連携強化による地域包括ケアシステムへの貢献 地域の医療機関や介護・福祉機関を積極的に訪問することを通じて、各機関との連携及び協力体制の充実を図るとともに、退院サポート部を中心として、種々の診療状況を常に分析し、機能強化を図るなど、円滑な在宅医療・療養への移行を推進する。 また、看護師等の医療従事者による退院前・退院後訪問を推進し、医療ニーズが高い患者が安心・安全に在宅療養へ移行できるように支援する。 5 岐阜医療圏地域コンソーシアムの活用 岐阜圏域の急性期を担う4つの医療機関（岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院及び松波総合病院）の連携	<table><tr><td>逆紹介率</td><td>96.2</td><td>97.6</td><td>110.5</td><td>107.9</td><td>111.2</td><td>114.2</td><td>+18.0pt</td></tr></table> ○ 医療機関への訪問件数 単位：件 <table><tr><td>項目</td><td>R1 年度</td><td>R2 年度</td><td>R3 年度</td><td>R4 年度</td><td>R5 年度</td><td>R6 年度</td><td>増減 (R1→R6)</td></tr><tr><td>転院先</td><td>23</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>22</td><td>19</td><td>▲4</td></tr><tr><td>開業医</td><td></td><td>16</td><td>41</td><td>45</td><td>149</td><td>250</td><td>—</td></tr></table> ○ 紹介・逆紹介・転院患者数 単位：人 <table><tr><td>項目</td><td>R1 年度</td><td>R2 年度</td><td>R3 年度</td><td>R4 年度</td><td>R5 年度</td><td>R6 年度</td><td>増減 (R1→R6)</td></tr><tr><td>紹介患者数</td><td>15,931</td><td>13,139</td><td>13,837</td><td>14,120</td><td>14,535</td><td>14,695</td><td>▲1,236</td></tr><tr><td>逆紹介患者数</td><td>19,811</td><td>18,330</td><td>21,249</td><td>22,670</td><td>21,754</td><td>21,432</td><td>+1,621</td></tr><tr><td>転院患者数</td><td>1,242</td><td>1,177</td><td>1,140</td><td>1,016</td><td>1,043</td><td>1,176</td><td>▲66</td></tr></table> ○ 開放型病床登録数 <table><tr><td>項目</td><td>R1 年度</td><td>R2 年度</td><td>R3 年度</td><td>R4 年度</td><td>R5 年度</td><td>R6 年度</td><td>増減 (R1→R6)</td></tr><tr><td>医療機関数</td><td>389 件</td><td>416 件</td><td>433 件</td><td>406 件</td><td>435 件</td><td>444 件</td><td>+55 件</td></tr><tr><td>医師数</td><td>521 人</td><td>531 人</td><td>550 人</td><td>570 人</td><td>580 人</td><td>617 人</td><td>+96 人</td></tr></table> ○ WEB 予約受付件数 単位：件 <table><tr><td>項目</td><td>R1 年度</td><td>R2 年度</td><td>R3 年度</td><td>R4 年度</td><td>R5 年度</td><td>R6 年度</td><td>増減 (R1→R6)</td></tr><tr><td>受付数</td><td>81</td><td>68</td><td>55</td><td>44</td><td>638</td><td>1,648</td><td>+1,567</td></tr></table> ○ 地域連携バスの新規適用実績 単位：件 <table><tr><td>連携バス名</td><td>R1 年度</td><td>R2 年度</td><td>R3 年度</td><td>R4 年度</td><td>R5 年度</td><td>R6 年度</td><td>増減 (R1→R6)</td></tr><tr><td>急性心筋梗塞</td><td>59</td><td>62</td><td>69</td><td>44</td><td>20</td><td>15</td><td>▲44</td></tr><tr><td>大腿骨頸部骨折</td><td>125</td><td>132</td><td>124</td><td>121</td><td>115</td><td>115</td><td>▲10</td></tr><tr><td>脳卒中</td><td>284</td><td>313</td><td>255</td><td>318</td><td>253</td><td>279</td><td>▲5</td></tr><tr><td>胃がん</td><td>41</td><td>30</td><td>45</td><td>30</td><td>22</td><td>35</td><td>▲6</td></tr></table>	逆紹介率	96.2	97.6	110.5	107.9	111.2	114.2	+18.0pt	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	転院先	23	4	1	0	22	19	▲4	開業医		16	41	45	149	250	—	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	紹介患者数	15,931	13,139	13,837	14,120	14,535	14,695	▲1,236	逆紹介患者数	19,811	18,330	21,249	22,670	21,754	21,432	+1,621	転院患者数	1,242	1,177	1,140	1,016	1,043	1,176	▲66	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	医療機関数	389 件	416 件	433 件	406 件	435 件	444 件	+55 件	医師数	521 人	531 人	550 人	570 人	580 人	617 人	+96 人	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	受付数	81	68	55	44	638	1,648	+1,567	連携バス名	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	急性心筋梗塞	59	62	69	44	20	15	▲44	大腿骨頸部骨折	125	132	124	121	115	115	▲10	脳卒中	284	313	255	318	253	279	▲5	胃がん	41	30	45	30	22	35	▲6			くことをお願いしていますが、ここ数年来、変更はありません。 糖尿病の栄養指導実施率が記載されているが、糖尿病は県総合医療センターが重点的に取り組むべき医療ではないと思います。(もちろん、DM 自体は非常に多くの疾患のベースとなる最重要疾患ですが) 糖尿病の栄養指導は開業医で十分できると思います。
逆紹介率	96.2	97.6	110.5	107.9	111.2	114.2	+18.0pt																																																																																																																																														
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																																																														
転院先	23	4	1	0	22	19	▲4																																																																																																																																														
開業医		16	41	45	149	250	—																																																																																																																																														
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																																																														
紹介患者数	15,931	13,139	13,837	14,120	14,535	14,695	▲1,236																																																																																																																																														
逆紹介患者数	19,811	18,330	21,249	22,670	21,754	21,432	+1,621																																																																																																																																														
転院患者数	1,242	1,177	1,140	1,016	1,043	1,176	▲66																																																																																																																																														
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																																																														
医療機関数	389 件	416 件	433 件	406 件	435 件	444 件	+55 件																																																																																																																																														
医師数	521 人	531 人	550 人	570 人	580 人	617 人	+96 人																																																																																																																																														
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																																																														
受付数	81	68	55	44	638	1,648	+1,567																																																																																																																																														
連携バス名	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																																																														
急性心筋梗塞	59	62	69	44	20	15	▲44																																																																																																																																														
大腿骨頸部骨折	125	132	124	121	115	115	▲10																																																																																																																																														
脳卒中	284	313	255	318	253	279	▲5																																																																																																																																														
胃がん	41	30	45	30	22	35	▲6																																																																																																																																														

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							評価委員会の検証																																																																																																												
		自己 評価	評価 提案	意見																																																																																																																	
	を強化し、効率的で質の高い医療体制を確保する。	<table><tr><td>肝がん</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>▲3</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>53</td><td>72</td><td>70</td><td>43</td><td>45</td><td>69</td><td>+16</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>127</td><td>82</td><td>40</td><td>48</td><td>38</td><td>35</td><td>▲92</td></tr><tr><td>肝炎</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>▲2</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>22</td><td>16</td><td>9</td><td>22</td><td>14</td><td>18</td><td>▲4</td></tr><tr><td>糖尿病</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>+1</td></tr><tr><td>COPD</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>5</td><td>+4</td></tr><tr><td>CKD</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>±0</td></tr><tr><td>PSA</td><td>17</td><td>21</td><td>14</td><td>22</td><td>8</td><td>8</td><td>▲9</td></tr><tr><td>前立腺がん</td><td>41</td><td>33</td><td>29</td><td>31</td><td>17</td><td>10</td><td>▲31</td></tr><tr><td>尿路上皮がん</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>▲2</td></tr><tr><td>サポートパス</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>±0</td></tr><tr><td>心不全</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>▲1</td></tr><tr><td>合計</td><td>778</td><td>766</td><td>658</td><td>683</td><td>533</td><td>590</td><td>▲188</td></tr></table>	肝がん	3	1	2	0	0	0	▲3	大腸がん	53	72	70	43	45	69	+16	乳がん	127	82	40	48	38	35	▲92	肝炎	2	1	0	0	0	0	▲2	肺がん	22	16	9	22	14	18	▲4	糖尿病	0	1	1	2	1	1	+1	COPD	1	1	0	2	0	5	+4	CKD	0	0	0	0	0	0	±0	PSA	17	21	14	22	8	8	▲9	前立腺がん	41	33	29	31	17	10	▲31	尿路上皮がん	2	1	0	0	0	0	▲2	サポートパス	0	0	0	0	0	0	±0	心不全	1	0	0	0	0	0	▲1	合計	778	766	658	683	533	590	▲188			
肝がん	3	1	2	0	0	0	▲3																																																																																																														
大腸がん	53	72	70	43	45	69	+16																																																																																																														
乳がん	127	82	40	48	38	35	▲92																																																																																																														
肝炎	2	1	0	0	0	0	▲2																																																																																																														
肺がん	22	16	9	22	14	18	▲4																																																																																																														
糖尿病	0	1	1	2	1	1	+1																																																																																																														
COPD	1	1	0	2	0	5	+4																																																																																																														
CKD	0	0	0	0	0	0	±0																																																																																																														
PSA	17	21	14	22	8	8	▲9																																																																																																														
前立腺がん	41	33	29	31	17	10	▲31																																																																																																														
尿路上皮がん	2	1	0	0	0	0	▲2																																																																																																														
サポートパス	0	0	0	0	0	0	±0																																																																																																														
心不全	1	0	0	0	0	0	▲1																																																																																																														
合計	778	766	658	683	533	590	▲188																																																																																																														
＊ 疾病予防の推進に関する事項 糖尿病患者に対する重症化及び合併症発症の予防や、心不全患者に対する重症化予防に取り組むため、当該疾患で入院した患者に対して栄養指導を積極的に実施した。心不全患者に対する栄養指導は患者の高齢化に伴い、患者本人への実施困難な場合が多く、実施率は減少傾向となっている。 また、感染予防に配慮した上で、健康祭や糖尿病教室、肝臓病教室（対面実施の代替として情報誌を発行）を実施し、疾患予防の周知に努めた。 ○ 各疾患に対する栄養指導実施率 単位：％ <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>糖尿病</td><td>93.2</td><td>95.0</td><td>95.1</td><td>97.9</td><td>93.6</td><td>89.8</td><td>▲3.4pt</td></tr><tr><td>心不全</td><td>63.3</td><td>67.1</td><td>47.0</td><td>53.0</td><td>46.5</td><td>47.7</td><td>▲15.6pt</td></tr></table> ＊ 地域の介護・福祉機関との連携に関する事項 地域の医療機関や介護・福祉機関と連携及び協力し、安心して在宅療養ができるように入院支援室（看護師等）が入院前から積極的に関わるとともに、各病棟に退院支援に従事する専任の退院支援職員（看護師・MSW 等）を配置することで、患者の症状や家族の状況等を迅速に把握し、患者にとってより適切な医療機関への転院、介護・福祉施設への退院を進めている。 さらに、医療ニーズが高い患者が安心・安全に在宅療養へ移行できるように支援するため、地域の訪問看護ステーション												項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	糖尿病	93.2	95.0	95.1	97.9	93.6	89.8	▲3.4pt	心不全	63.3	67.1	47.0	53.0	46.5	47.7	▲15.6pt																																																																																		
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																														
糖尿病	93.2	95.0	95.1	97.9	93.6	89.8	▲3.4pt																																																																																																														
心不全	63.3	67.1	47.0	53.0	46.5	47.7	▲15.6pt																																																																																																														

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価						評価委員会の検証			
		自己 評価	評価 提案	意見							
		ンの看護師と共に患家を訪問（ICT を活用した、リモートによる訪問も含む）し、支援を実施した。									
		○ 地域の医療機関、福祉施設等への連携状況						単位：件			
		項目		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	
		退院調整		1,912	1,802	1,839	1,835	1,845	1,927	+15	
		施設からの情報提供		830	881	787	1,074	1,136	927	+97	
		退院前合同カンファレンス		182	77	83	108	128	154	▲28	
		訪問看護（退院前後）		13	15	14	6	9	17	+4	
05	1 救急医療 岐阜圏域の救命救急センターとして、循環器系疾患、外傷を始め、指肢切断、急性薬物中毒などの特殊な症例を含め全ての救急疾患（精神科疾患を除く。）に全診療科が対応し、二次・三次救急患者を24時間体制で受け入れ、安心して受診できる体制を確保し、救命救急センターへの更なる機能強化と充実を図り、「断らない医療」を目指す。 2 心血管疾患医療 心筋梗塞をはじめとする虚血性心疾患、慢性心不全、弁膜症、大動脈疾患、末梢血管疾患等心臓血管系の疾患患者に対し、内科系の循環器内科と外科系の心臓血管外科が連携したチーム医療を推進するとともに、高齢化社会に対応した低侵襲治療を充実させることで、不整脈治療、カテーテル治療、ハイブリッド治療等患者にとって最新で最適な治療を提供する。 3 周産期医療 総合周産期センター（産婦人科等）	* 救急医療に関する事項 岐阜圏域における救命救急センターとして、「断らない医療」を目指し、精神科疾患を除くすべての救急疾患を対象に24時間体制で対応している。 受入体制について、外来では地域の医療機関と連携しながら、内科系、外科系、小児科系の医師による24時間体制とし、入院では主治医制で対応した。特に、二次、三次救急患者等の重症・重篤症例や複数診療科にまたがる症例を受け入れ、当センターでの救急医療の完結を目指している。そのため、臨床検査や放射線検査を常時可能とし、全診療科の24時間呼び出し体制を取ることで、緊急手術も常時行える体制となっている。 ○ 病床利用状況						IV		小児救急外来の増減について検証を要する。 救急医療、心血管医療、周産期医療、こども医療はまさしく政策医療である。一方、県総合医療センターが重点的に取り組んでいるがん医療の一部は 岐阜医療圏内の中小病院でも対応可能な疾患・重症度は多々あると思います。前述の役割分担の立場からも、すべてのがん患者を自院に取りこむべきではないと思います。また、がん患者の外来数の増加は、放射線治療は無理ですが、副作用の重くない比較的容易に投与でき観察が容易な化学療法を投与している患者は、一般開業医でもフォロー可能だと思います。そのような症例も取り込んでいるが故の増加と推測されるので、やはり、開業医との役割分担も	
		項目		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度		増減 (R1→R6)
		延入院患者数		8,062 人	6,360 人	7,708 人	8,304 人	7,795 人	7,915 人		▲147 人
		病床利用率		73.4%	58.1%	70.4%	75.8%	71.0%	72.3%		▲1.1pt
		○ 救急車受入台数									
		項目		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	
		救急車受入件数		5,706 件	4,705 件	5,327 件	6,014 件	6,285 件	6,082 件	+376 件	
		同 一日平均台数		15.6 台	12.9 台	14.6 台	16.5 台	17.2 台	16.7 台	+1.1 台	
		○ 救急外来患者数						単位：人			
		診療科		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	
		小児科		6,428	2,831	3,945	4,672	5,483	4,441	▲1,987	

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							自己 評価	評価委員会の検証																																																																																																																																																											
										評価 提案	意見																																																																																																																																																										
	と新生児医療センター（新生児内科）を基幹として、各診療科の枠を超えた母とこどもの総合的な高度医療を提供する。 また、岐阜県内外の医療機関から、ヘリコプターや救急車、すこやか号により緊急母体搬送される重症妊産婦や未熟児をはじめとする新生児疾患患者を24時間体制で可能な限り受け入れるとともに、出生前診断、胎児治療等の最新の治療を提供する。 4 がん医療 地域がん診療連携拠点病院として高精度放射線治療装置を更新及び拡充をし機能強化を図った上で、地域の医療機関と連携してあらゆる病期のがん患者に対して、診療ガイドラインに基づいた質の高い医療を提供する。 ロボット手術、鏡視下手術等の低侵襲治療を積極的に展開するとともに、進行がんに対しては放射線療法、化学療法等の集学的治療の充実により、更なる治療成績の向上を図る。 また、がんの診断時から緩和ケアチームが積極的に関わり、地域の医療機関と連携を強め、在宅緩和ケアなど患者の希望に沿った切れ目のない緩和ケアを実施する。 がん患者及びその家族の在宅医療支援や就労支援については、患者のニーズを踏まえ、がん相談支援センターの機能の充実を図る。 さらに、ゲノム医療については、がんゲノム医療中核拠点病院である名古屋大学医学部附属病院を中心に地域のがんゲノム医療拠点病院等と連携しつつ、適切な診療体制の構築	<table><tr><td>消化器内科</td><td>2,809</td><td>2,237</td><td>2,449</td><td>2,593</td><td>2,659</td><td>2,611</td><td>▲198</td></tr><tr><td>整形外科</td><td>2,693</td><td>2,096</td><td>2,051</td><td>2,072</td><td>2,414</td><td>2,280</td><td>▲413</td></tr><tr><td>総合診療科</td><td>3,975</td><td>2,827</td><td>2,975</td><td>3,121</td><td>3,290</td><td>3,098</td><td>▲877</td></tr><tr><td>外科</td><td>1,473</td><td>1,236</td><td>1,215</td><td>1,160</td><td>863</td><td>812</td><td>▲661</td></tr><tr><td>循環器内科</td><td>1,873</td><td>1,482</td><td>1,764</td><td>1,765</td><td>1,668</td><td>1,835</td><td>▲38</td></tr><tr><td>脳神経内科</td><td>1,254</td><td>1,107</td><td>1,185</td><td>1,436</td><td>1,295</td><td>1,199</td><td>▲55</td></tr><tr><td>その他</td><td>6,788</td><td>5,583</td><td>5,758</td><td>6,236</td><td>6,397</td><td>6,256</td><td>▲532</td></tr><tr><td>計</td><td>27,293</td><td>19,399</td><td>21,342</td><td>23,055</td><td>24,069</td><td>22,532</td><td>▲4,761</td></tr></table> ＊ 心血管疾患医療に関する事項 心臓血管センターは、内科系の循環器内科と外科系の心臓血管外科が連携したチーム医療を推進し、高齢化社会に対応した低侵襲治療を充実させている。 心臓血管系の病気は救急処置を要することが多く、循環器内科医師、心臓血管外科医師が24時間体制で対応し、カテーテル治療、外科的治療など患者にとって最適な治療を提供している。また、救命救急センター、心臓カテーテル室、手術室などは専用大型エレベーターで直結されており、患者の最短でスムーズな移動が確保されている。 さらに、ハイブリッド手術室の整備により、循環器内科と心臓血管外科による腹部・胸部ステントグラフト内挿術やTAVI、MitraClip等の術式を多く実施している。 ○ 手術・検査件数 <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>心臓カテーテル</td><td>1,220</td><td>1,023</td><td>1,082</td><td>1,053</td><td>1,142</td><td>1,020</td><td>▲200</td></tr><tr><td>PCI（経皮的冠動脈形成術）</td><td>458</td><td>398</td><td>531</td><td>421</td><td>473</td><td>503</td><td>+45</td></tr><tr><td>冠動脈バイパス術</td><td>59</td><td>26</td><td>42</td><td>47</td><td>36</td><td>44</td><td>▲15</td></tr><tr><td>弁置換術</td><td>35</td><td>25</td><td>28</td><td>17</td><td>16</td><td>14</td><td>▲21</td></tr><tr><td>弁形成術</td><td>20</td><td>6</td><td>11</td><td>15</td><td>10</td><td>7</td><td>▲13</td></tr><tr><td>大動脈瘤切除術</td><td>28</td><td>34</td><td>46</td><td>48</td><td>38</td><td>46</td><td>+18</td></tr><tr><td>Ablat（アブレーション）</td><td>264</td><td>255</td><td>273</td><td>259</td><td>299</td><td>313</td><td>+49</td></tr><tr><td>PMI（ペースメーカー）</td><td>128</td><td>128</td><td>150</td><td>143</td><td>144</td><td>146</td><td>+18</td></tr><tr><td>CRT（心臓再同期療法）</td><td>5</td><td>6</td><td>9</td><td>3</td><td>3</td><td>11</td><td>+6</td></tr><tr><td>ICD（植込み型除細動器）</td><td>17</td><td>23</td><td>17</td><td>32</td><td>35</td><td>31</td><td>+14</td></tr><tr><td>CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>10</td><td>13</td><td>+4</td></tr></table>	消化器内科	2,809	2,237	2,449	2,593	2,659	2,611	▲198	整形外科	2,693	2,096	2,051	2,072	2,414	2,280	▲413	総合診療科	3,975	2,827	2,975	3,121	3,290	3,098	▲877	外科	1,473	1,236	1,215	1,160	863	812	▲661	循環器内科	1,873	1,482	1,764	1,765	1,668	1,835	▲38	脳神経内科	1,254	1,107	1,185	1,436	1,295	1,199	▲55	その他	6,788	5,583	5,758	6,236	6,397	6,256	▲532	計	27,293	19,399	21,342	23,055	24,069	22,532	▲4,761	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	心臓カテーテル	1,220	1,023	1,082	1,053	1,142	1,020	▲200	PCI（経皮的冠動脈形成術）	458	398	531	421	473	503	+45	冠動脈バイパス術	59	26	42	47	36	44	▲15	弁置換術	35	25	28	17	16	14	▲21	弁形成術	20	6	11	15	10	7	▲13	大動脈瘤切除術	28	34	46	48	38	46	+18	Ablat（アブレーション）	264	255	273	259	299	313	+49	PMI（ペースメーカー）	128	128	150	143	144	146	+18	CRT（心臓再同期療法）	5	6	9	3	3	11	+6	ICD（植込み型除細動器）	17	23	17	32	35	31	+14	CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）	9	8	8	8	10	13	+4			進めていただきたいと思います。
消化器内科	2,809	2,237	2,449	2,593	2,659	2,611	▲198																																																																																																																																																														
整形外科	2,693	2,096	2,051	2,072	2,414	2,280	▲413																																																																																																																																																														
総合診療科	3,975	2,827	2,975	3,121	3,290	3,098	▲877																																																																																																																																																														
外科	1,473	1,236	1,215	1,160	863	812	▲661																																																																																																																																																														
循環器内科	1,873	1,482	1,764	1,765	1,668	1,835	▲38																																																																																																																																																														
脳神経内科	1,254	1,107	1,185	1,436	1,295	1,199	▲55																																																																																																																																																														
その他	6,788	5,583	5,758	6,236	6,397	6,256	▲532																																																																																																																																																														
計	27,293	19,399	21,342	23,055	24,069	22,532	▲4,761																																																																																																																																																														
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																																																																														
心臓カテーテル	1,220	1,023	1,082	1,053	1,142	1,020	▲200																																																																																																																																																														
PCI（経皮的冠動脈形成術）	458	398	531	421	473	503	+45																																																																																																																																																														
冠動脈バイパス術	59	26	42	47	36	44	▲15																																																																																																																																																														
弁置換術	35	25	28	17	16	14	▲21																																																																																																																																																														
弁形成術	20	6	11	15	10	7	▲13																																																																																																																																																														
大動脈瘤切除術	28	34	46	48	38	46	+18																																																																																																																																																														
Ablat（アブレーション）	264	255	273	259	299	313	+49																																																																																																																																																														
PMI（ペースメーカー）	128	128	150	143	144	146	+18																																																																																																																																																														
CRT（心臓再同期療法）	5	6	9	3	3	11	+6																																																																																																																																																														
ICD（植込み型除細動器）	17	23	17	32	35	31	+14																																																																																																																																																														
CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）	9	8	8	8	10	13	+4																																																																																																																																																														

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							自己 評価	評価委員会の検証																																																																																																	
										評価 提案	意見																																																																																																
	を図る。 5 こども医療 小児医療の拠点病院として、一般の医療機関では対応が困難な重篤な小児患者を診療科を問わず24時間体制で受け入れ、高度で専門的な医療を提供する。 また、小児救命救急センターとして必要な整備基準（PICU への入院症例確保）を満たすよう体制づくりに努める。	<table><tr><td>EVAR（腹部ステント内挿術）</td><td>68</td><td>34</td><td>35</td><td>31</td><td>27</td><td>12</td><td>▲56</td></tr><tr><td>TEVAR（胸部ステント内挿術）</td><td>24</td><td>7</td><td>11</td><td>6</td><td>6</td><td>8</td><td>▲16</td></tr><tr><td>TAVI（経カテ大動脈弁置換）</td><td>59</td><td>50</td><td>59</td><td>50</td><td>57</td><td>51</td><td>▲8</td></tr><tr><td>MitraClip（経カテ僧帽弁クリップ）</td><td>45</td><td>40</td><td>30</td><td>26</td><td>19</td><td>25</td><td>▲20</td></tr><tr><td>経カテーテル的左心耳閉鎖術</td><td></td><td></td><td>31</td><td>72</td><td>48</td><td>33</td><td>－</td></tr></table>	EVAR（腹部ステント内挿術）	68	34	35	31	27	12	▲56	TEVAR（胸部ステント内挿術）	24	7	11	6	6	8	▲16	TAVI（経カテ大動脈弁置換）	59	50	59	50	57	51	▲8	MitraClip（経カテ僧帽弁クリップ）	45	40	30	26	19	25	▲20	経カテーテル的左心耳閉鎖術			31	72	48	33	－																																																																	
EVAR（腹部ステント内挿術）	68	34	35	31	27	12	▲56																																																																																																				
TEVAR（胸部ステント内挿術）	24	7	11	6	6	8	▲16																																																																																																				
TAVI（経カテ大動脈弁置換）	59	50	59	50	57	51	▲8																																																																																																				
MitraClip（経カテ僧帽弁クリップ）	45	40	30	26	19	25	▲20																																																																																																				
経カテーテル的左心耳閉鎖術			31	72	48	33	－																																																																																																				
＊ 周産期医療に関する事項 総合周産期母子医療センターでは、新生児センター機能とハイリスクの妊産婦等の医療機能などを統合し、産婦人科と小児科の枠を超えた高度医療を提供しており、合併症妊娠や異常妊娠、多胎妊娠、産褥異常、胎児異常等の患者の診療を行っている。 また、県内外の医療機関から、専用のドクターカー（すこやか号）やヘリコプター、救急車による緊急母体搬送などで紹介されてくるハイリスク妊婦を 24 時間体制で可能な限り受け入れ、産科と新生児内科が連携をとりながら総合的なチーム医療を行っている。 ○ 分娩件数等の状況 単位：件 <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>分娩件数</td><td>624</td><td>545</td><td>592</td><td>512</td><td>519</td><td>474</td><td>▲150</td></tr><tr><td>母体搬送受入件数</td><td>103 (6)</td><td>75 (2)</td><td>143 (1)</td><td>147 (0)</td><td>143 (3)</td><td>153 (2)</td><td>+50 (▲4)</td></tr><tr><td>救急搬送受入件数</td><td>13</td><td>6</td><td>10</td><td>3</td><td>7</td><td>15</td><td>+2</td></tr></table> ※（ ）数値はヘリコプター搬送 ○ 産科合併症の状況 単位：件 <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>早産</td><td>135</td><td>117</td><td>106</td><td>95</td><td>140</td><td>111</td><td>▲24</td></tr><tr><td>HDP（妊娠高血圧症候群）</td><td>61</td><td>36</td><td>34</td><td>31</td><td>18</td><td>20</td><td>▲41</td></tr><tr><td>常位胎盤・早期剥離</td><td>11</td><td>5</td><td>12</td><td>6</td><td>5</td><td>13</td><td>+2</td></tr><tr><td>胎盤位置異常</td><td>39</td><td>53</td><td>50</td><td>28</td><td>29</td><td>38</td><td>▲1</td></tr><tr><td>羊水の異常</td><td>70</td><td>80</td><td>84</td><td>52</td><td>34</td><td>87</td><td>+17</td></tr><tr><td>胎児異常</td><td>98</td><td>77</td><td>115</td><td>101</td><td>92</td><td>120</td><td>+22</td></tr><tr><td>FGR（胎児発育不全）</td><td>48</td><td>43</td><td>53</td><td>51</td><td>33</td><td>62</td><td>+14</td></tr></table> ○ 合併症妊娠の状況 単位：件												項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	分娩件数	624	545	592	512	519	474	▲150	母体搬送受入件数	103 (6)	75 (2)	143 (1)	147 (0)	143 (3)	153 (2)	+50 (▲4)	救急搬送受入件数	13	6	10	3	7	15	+2	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	早産	135	117	106	95	140	111	▲24	HDP（妊娠高血圧症候群）	61	36	34	31	18	20	▲41	常位胎盤・早期剥離	11	5	12	6	5	13	+2	胎盤位置異常	39	53	50	28	29	38	▲1	羊水の異常	70	80	84	52	34	87	+17	胎児異常	98	77	115	101	92	120	+22	FGR（胎児発育不全）	48	43	53	51	33	62	+14
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																				
分娩件数	624	545	592	512	519	474	▲150																																																																																																				
母体搬送受入件数	103 (6)	75 (2)	143 (1)	147 (0)	143 (3)	153 (2)	+50 (▲4)																																																																																																				
救急搬送受入件数	13	6	10	3	7	15	+2																																																																																																				
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																																				
早産	135	117	106	95	140	111	▲24																																																																																																				
HDP（妊娠高血圧症候群）	61	36	34	31	18	20	▲41																																																																																																				
常位胎盤・早期剥離	11	5	12	6	5	13	+2																																																																																																				
胎盤位置異常	39	53	50	28	29	38	▲1																																																																																																				
羊水の異常	70	80	84	52	34	87	+17																																																																																																				
胎児異常	98	77	115	101	92	120	+22																																																																																																				
FGR（胎児発育不全）	48	43	53	51	33	62	+14																																																																																																				

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							評価委員会の検証																																																																																													
									自己 評価	評価 提案	意見																																																																																											
			<table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>婦人科系疾患</td><td>50</td><td>117</td><td>132</td><td>157</td><td>153</td><td>178</td><td>+128</td></tr><tr><td>心・血管疾患</td><td>11</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td><td>22</td><td>12</td><td>+1</td></tr><tr><td>血液疾患</td><td>3</td><td>1</td><td>8</td><td>9</td><td>4</td><td>5</td><td>+2</td></tr><tr><td>腎疾患</td><td>6</td><td>9</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>17</td><td>+11</td></tr><tr><td>糖尿病・妊娠性糖尿病</td><td>57</td><td>39</td><td>43</td><td>36</td><td>49</td><td>23</td><td>▲34</td></tr><tr><td>甲状腺疾患</td><td>26</td><td>35</td><td>38</td><td>59</td><td>37</td><td>31</td><td>+5</td></tr><tr><td>自己免疫・膠原病</td><td>6</td><td>9</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>7</td><td>+1</td></tr><tr><td>呼吸器疾患</td><td>6</td><td>8</td><td>13</td><td>19</td><td>26</td><td>23</td><td>+17</td></tr><tr><td>消化器疾患</td><td>2</td><td>3</td><td>22</td><td>9</td><td>13</td><td>7</td><td>+5</td></tr><tr><td>精神・神経系</td><td>10</td><td>11</td><td>14</td><td>6</td><td>27</td><td>14</td><td>+4</td></tr><tr><td>運動機能系</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>±0</td></tr></table>	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	婦人科系疾患	50	117	132	157	153	178	+128	心・血管疾患	11	9	8	10	22	12	+1	血液疾患	3	1	8	9	4	5	+2	腎疾患	6	9	14	13	13	17	+11	糖尿病・妊娠性糖尿病	57	39	43	36	49	23	▲34	甲状腺疾患	26	35	38	59	37	31	+5	自己免疫・膠原病	6	9	5	3	6	7	+1	呼吸器疾患	6	8	13	19	26	23	+17	消化器疾患	2	3	22	9	13	7	+5	精神・神経系	10	11	14	6	27	14	+4	運動機能系	0	0	0	0	0	0	±0			
			項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																												
			婦人科系疾患	50	117	132	157	153	178	+128																																																																																												
			心・血管疾患	11	9	8	10	22	12	+1																																																																																												
			血液疾患	3	1	8	9	4	5	+2																																																																																												
			腎疾患	6	9	14	13	13	17	+11																																																																																												
			糖尿病・妊娠性糖尿病	57	39	43	36	49	23	▲34																																																																																												
			甲状腺疾患	26	35	38	59	37	31	+5																																																																																												
			自己免疫・膠原病	6	9	5	3	6	7	+1																																																																																												
			呼吸器疾患	6	8	13	19	26	23	+17																																																																																												
			消化器疾患	2	3	22	9	13	7	+5																																																																																												
			精神・神経系	10	11	14	6	27	14	+4																																																																																												
			運動機能系	0	0	0	0	0	0	±0																																																																																												
			○ ハイリスク妊娠・分娩 (対象者) 単位：件																																																																																																			
			<table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>総合周産期加算</td><td>347</td><td>307</td><td>335</td><td>291</td><td>310</td><td>264</td><td>▲83</td></tr><tr><td>ハイリスク妊娠</td><td>215</td><td>209</td><td>254</td><td>264</td><td>287</td><td>217</td><td>+2</td></tr><tr><td>ハイリスク分娩</td><td>87</td><td>91</td><td>128</td><td>109</td><td>132</td><td>116</td><td>+29</td></tr><tr><td>救急加算</td><td>109</td><td>156</td><td>149</td><td>148</td><td>148</td><td>171</td><td>+62</td></tr></table>	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	総合周産期加算	347	307	335	291	310	264	▲83	ハイリスク妊娠	215	209	254	264	287	217	+2	ハイリスク分娩	87	91	128	109	132	116	+29	救急加算	109	156	149	148	148	171	+62																																																											
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																															
総合周産期加算	347	307	335	291	310	264	▲83																																																																																															
ハイリスク妊娠	215	209	254	264	287	217	+2																																																																																															
ハイリスク分娩	87	91	128	109	132	116	+29																																																																																															
救急加算	109	156	149	148	148	171	+62																																																																																															
新生児センターでは、県内の新生児医療の中核となり、高度な医療設備のもとで、専用のドクターカー（すこやか号）を活用し、超低出生体重児の後遺症なき発育を目指している。																																																																																																						
軽症の院外出生児は他院へ三角搬送を行い、当センターでしか管理できない中等症・重症例を受け入れている。緊急対応が必要な新生児手術は、産科や小児外科系の診療科と連携をとりながら、総合的なチーム医療を行っている。																																																																																																						
また、令和2年7月には、拡張工事により NICU 病床を3床増床し、中等症・重症例の搬送受け入れを増やすことが可能になった。																																																																																																						
○ 母体搬送及び低出生体重児等の状況 単位：件																																																																																																						
<table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>母体搬送受入件数</td><td>60</td><td>36</td><td>30</td><td>31</td><td>44</td><td>43</td><td>▲17</td></tr></table>	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	母体搬送受入件数	60	36	30	31	44	43	▲17																																																																																						
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																															
母体搬送受入件数	60	36	30	31	44	43	▲17																																																																																															

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							評価委員会の検証	
		自己 評価							評価 提案	意見
		超低出生体重児	31	31	22	24	31	23	▲8	
		極低出生体重児	60	57	48	41	50	62	+2	
		○ 新生児手術の状況 単位：件								
		項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	
		小児心臓外科	10	15	9	8	8	13	+3	
		小児脳神経外科	1	5	6	3	1	7	+6	
		小児外科	16	25	47	23	26	31	+15	
		耳鼻科（気管切開）	2	3	4	4	2	3	+1	
		* がん医療に関する事項								
		がん医療にかかわる部門（緩和ケア部、がん相談支援部、化学療法部、放射線治療部、がん登録室、その他各診療部門等）をまとめたがん医療センターとして、地域がん診療連携拠点病院の機能を充実し、チーム医療を行っている。あらゆる病期のがん患者に対して、診療ガイドラインに基づいた良質な医療を提供し、最新技術を用いて、がんの早期診断、早期治療に努めるとともに、進行がん患者に対しては、集学的治療により、さらなる治療成績の向上を図っている。また、ロボット手術をはじめとした鏡視下手術等の先進的低侵襲治療を積極的に展開している。								
		ゲノム医療については、がんゲノム医療中核拠点病院である名古屋大学医学部附属病院と連携し、遺伝子変異に基づいた個別化治療につなげるためのがん遺伝子パネル検査を推進している。								
		がんの在宅患者及び入院患者、その患者家族の相談支援のために、「ほっとサロン」を継続的に開催し、がん患者や家族の交流の場として利用されている。また、がん患者に対する就労支援についても、ハローワーク就労支援員や社会保険労務士等による相談も実施している。								
		AYA 世代サポートチームの活動を令和4年11月から開始し、AYA 世代のがん患者を支援する活動（イベント参加や広報等）を行った。								
		○ がん患者及び治療実績 単位：人								
		項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	
		入院患者数	3,073	2,926	3,069	3,342	3,465	3,395	+322	
		外来患者数	70,577	70,467	73,399	74,646	75,528	79,829	+9,252	
		外科的治療	1,371(13 6)	1,299(15 0)	1,200(12 0)	1,319(14 9)	1,448(18 8)	1,501(25 3)	+130(+11 7)	
		外来がん化学療法	5,937	6,469	6,549	6,599	6,525	7,131	+1,194	
		入院がん化学療法	2,794	2,601	2,634	2,925	3,115	2,682	▲112	

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							自己 評価	評価委員会の検証		
										評価 提案	意見	
		放射線治療	470	471	445	427	510	661	+191			
		※ () 数値は、ダ・ヴィンチによる手術										
		○ がん相談、就労相談件数とほっとサロン利用人数							単位：人			
		項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)			
		がん相談件数	953	917	1, 127	1, 018	1, 262	1, 140	+187			
		就労支援 (がん)	113	54	89	35	18	21	▲92			
		ほっとサロン利用人数	1, 792	250	719	750	718	923	▲869			
		* こども医療に関する事項										
		小児医療の拠点病院として、一般の医療機関では対応が困難な小児の疾患に対し、高度で専門的な医療を提供している。 また、6床のPICU（小児集中治療室）により、二次・三次小児救急患者を24時間体制で受け入れ、重篤な小児患者に対応した。										
		小児救命救急センターになるべく、整備基準（PICU への入院症例確保）を満たすよう努めたが、必要数には至っていない。										
		岐阜県の小児医療の中心的な役割を担う施設として、日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）に所属し、総会への参加（2022年度は総会の担当病院）や各種照会による情報共有を継続した。										
		○ PICU 稼働状況										
		項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)			
		入院患者数	186 人	178 人	202 人	168 人	185 人	177 人	▲9 人			
		稼働率	49.8%	51.5%	59.9%	75.4%	64.2%	66.3%	+16.5pt			
		○ 15 歳未満救急外来受入状況							単位：人			
		項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)			
		受入患者数	8, 694	4, 581	5, 711	6, 408	7, 129	5, 963	▲2, 731			
		うち、入院数	1, 091	728	848	890	1, 053	911	▲180			

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価	評価委員会の検証																																										
		自己 評価	評価 提案	意見																																									
06	1 臨床研究及び治験の推進 治験や臨床研究事業に積極的に取り組み、治験管理部を充実させ、岐阜医療圏地域コンソーシアムを活用することで、受託件数の増加促進を図る。 2 大学等の研究機関や企業との共同研究の推進 大学等の研究機関や企業との共同研究・研修を実施するとともに、疫学統計調査や臨床研究を行い医療水準の向上に資する。	＊ 調査及び臨床研究等に関する事項 提供する医療の質及び県内の医療水準の向上等を図るため、治験事業や調査研究事業に積極的に参画できる体制を整備するための「治験管理部」を中心に岐阜医療圏地域コンソーシアムでの共同治験にも参加し、治験症例数は増加傾向となった。 また、千葉大学との科研費を活用した共同研究（研究課題：早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者 QOL を向上する全国研究）を開始した。 ○ 治験件数 <table><tr><td></td><td colspan="7">単位：件</td></tr><tr><td>項目</td><td>R1 年度</td><td>R2 年度</td><td>R3 年度</td><td>R4 年度</td><td>R5 年度</td><td>R6 年度</td><td>増減 (R1→R6)</td></tr><tr><td>治験実施件数</td><td>23</td><td>19</td><td>18</td><td>23</td><td>22</td><td>15</td><td>▲8</td></tr><tr><td>治験症例件数</td><td>26</td><td>17</td><td>35</td><td>39</td><td>25</td><td>38</td><td>+12</td></tr><tr><td>受託研究件数</td><td>102</td><td>129</td><td>108</td><td>140</td><td>104</td><td>113</td><td>+11</td></tr></table> ○ 主な臨床研究事業 ・JROAD-DPC を使用した劇症型心筋炎の疾患登録とその解析 ・COVID-19 中等症～重症患者の比較的徐脈に関する後方視的調査 ・MitraClip EXPAND G4 システムの安全性と性能を評価するための市販後臨床研究 ・妊娠 22 週未満の前期破水例における人工羊水注入療法の意義と長期予後の検討 ・消化管腫瘍や消化管出血既往を有する患者における WATCHMAN デバイスを用いた経皮的左心耳閉鎖術の有用性の検討 ・循環器疾患診療実態調査のデータベースと CRT 患者の予後に関わる因子に関する研究 ・非壊死性絞扼性腸閉塞の画像診断と予後：人工知能を用いた新規診断法の開発 ・当院の新生児低血糖ハイリスク児アルゴリズムにおける臍帯血血糖値の役割について ・がん患者の意向を尊重した看護を行うための外来化学療法センターと他部署の連携の充実 ○ 大学等の研究機関への参加状況 <岐阜大学> ・先端画像開発講座（H29～R3） <県立看護大学> ・小児関係共同研究（R1～） <千葉大学> ・早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者 QOL を向上する全国研究（R2～）		単位：件							項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	治験実施件数	23	19	18	23	22	15	▲8	治験症例件数	26	17	35	39	25	38	+12	受託研究件数	102	129	108	140	104	113	+11	Ⅲ		臨床研究で最も大切なことは、結果を学会で発表し、査読のある論文として世に出すことです。そういった実績が提示されていません。
	単位：件																																												
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																						
治験実施件数	23	19	18	23	22	15	▲8																																						
治験症例件数	26	17	35	39	25	38	+12																																						
受託研究件数	102	129	108	140	104	113	+11																																						

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点（●））、法人の自己評価	評価委員会の検証																																																		
		自己 評価	評価 提案	意見																																																	
08	1 質の高い臨床研修医の養成等 質の高い臨床研修医養成のため、岐阜県医師育成・確保コンソーシアム及び岐阜医療圏地域コンソーシアムとの連携や各種研修シミュレーターの導入等により独自の臨床研修プログラムを開発し、その推進体制を強化する。 2 専攻医の育成等 当センター独自の研修プログラムを積極的に適用し、専門医取得に向けた取組を実施する。 また、岐阜医療圏地域コンソーシアム及び研修協力病院との連携や、看護部、中央検査部、中央放射線部、薬剤センター等病院内の各部署と連携して、研修プログラムの充実及び専攻医の資質向上を図る。	＊ 質の高い臨床研修医、専攻医の養成に関する事項 医師の卒後臨床研修等の充実について、岐阜大学医学部附属病院等と連携を密にしながら、当センター独自の研修プログラムを推進した。また、国内の大学附属病院や先進病院への定期的な研修派遣に加え、海外の先進病院へも研修派遣を行い、高度な医療技術の習得に努めている。 当センターの研修プログラムにマッチングした研修医に対しては、研修指導医を中心に、看護師、薬剤師、その他コメディカル、事務職員等、当センターのすべての職員が研修医の教育に関わり、チーム医療の一員としての優秀な医師の養成を支援している。 専攻医の育成については、専門医取得に向けた当センター独自の研修プログラムにより、スムーズな専門医取得ができるように推進している。また、専門医機構から基幹病院として認定された、内科、小児科、整形外科においては、研修プログラムの作成と運用を継続し、その役割を果たした。 令和6年12月には、臨床研修評価機構（JCEP）の審査を受け、認定された。 ○ 研修医（専攻医）の受入数及び学会参加者延べ数 <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>初期研修医（医師）</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>31</td><td>33</td><td>33</td><td>+1</td></tr><tr><td>初期研修医（歯科医師）</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td><td>▲1</td></tr><tr><td>研修指導医</td><td>89</td><td>89</td><td>88</td><td>89</td><td>86</td><td>89</td><td>±0</td></tr><tr><td>専攻医</td><td>41</td><td>52</td><td>42</td><td>40</td><td>42</td><td>45</td><td>+4</td></tr><tr><td>専攻医学会参加者数</td><td>89</td><td>91</td><td>85</td><td>79</td><td>99</td><td>82</td><td>▲7</td></tr></table> 単位：人	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	初期研修医（医師）	32	32	32	31	33	33	+1	初期研修医（歯科医師）	3	2	2	1	3	2	▲1	研修指導医	89	89	88	89	86	89	±0	専攻医	41	52	42	40	42	45	+4	専攻医学会参加者数	89	91	85	79	99	82	▲7	Ⅲ		研修医、専攻医の獲得・養成は岐阜県においては喫緊の課題です。今後の県全体の医療が成長するか否かにかかわる、根源的問題と言ってもいいかもしれません。一方、県総合医療センターは岐阜圏域のみならず、県全体の医療水準の向上に資する使命も帯びています。そうした背景のもと、臨床研修医数は厚労省の管轄下であるため、いかんともし難いですが、専攻医数は基幹病院として、増加させることが可能性だと思います。プログラムが内科、小児科、整形外科しかないのは、外科等、その他の科の診療実績から見ておかしいと思います。何科においても、県全体で専攻医数が増えることによるデメリットは全くないので、是非積極的に専攻医プログラム新設を進めていただきたい。
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																														
初期研修医（医師）	32	32	32	31	33	33	+1																																														
初期研修医（歯科医師）	3	2	2	1	3	2	▲1																																														
研修指導医	89	89	88	89	86	89	±0																																														
専攻医	41	52	42	40	42	45	+4																																														
専攻医学会参加者数	89	91	85	79	99	82	▲7																																														
10	1 地域医療水準の向上 地域の医療機関を積極的に訪問することにより連携を強化し、高度医療機器の共同利用を促進するとともに、開放型病床の利用促進及び開放型病床利用登録医師との共同診療の実施により地域医療の質の向上を図る。 2 医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への人的支援を含む診療支援による県全体の医療の	＊ 地域医療水準の向上に関する事項 地域の医療機関を積極的に訪問することにより連携を強化し、高度先進医療機器の共同利用を促進するとともに、開放型病床の利用及び開放型病床利用登録医師との共同診療を促進することにより地域医療水準の向上を図っている。共同利用の件数については、自施設にCTを設置する医療機関が増加したことから、CTの件数は減少傾向となっている。二次性骨折予防パスの普及を目指し、令和7年1月より新たに骨密度（骨塩定量測定）検査を追加したが、年度内の利用はなかった。 また、総合周産期母子医療センターでは夜間・休日診療に周辺地域の開業医の協力を得ており、小児夜間急病センターでは各務原市医師会と連携し、小児夜間輪番において地域連携診療を実施している。 平成27年度より岐阜県医師会が運用する「ぎふ清流ネット」に参加し、地域の医療機関に当センターの電子カルテ診療情報を提供するとともに、放射線画像の公開を行っている。	Ⅲ		全体的にはⅢ相当と思われますが、医師不足地域への医師派遣、へき地医療支援は十分とは言えないと思います。過去に大学医局が果たしていた役割が、医局制度の解体で不可能になったのが根本原因ですが、それを代行するのが、県全体の医療向上を使命とする県総合医療センターだと思いま																																																

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							評価委員会の検証																																		
									自己 評価	評価 提案	意見																																
	確保 へき地医療拠点病院として、医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への人的支援を含む診療支援を継続し、県全体の医療体制の確保に努める。 3 へき地医療対策の支援 岐阜県へき地医療支援機構との業務委託契約を締結するとともに、へき地診療所等からの代診要請等に積極的に対応し、診療支援など人的支援ができるよう、へき地医療対策の支援を充実させる。 さらに、岐阜県医師育成・確保コンソーシアムを活用した医師不足解消に向けた取組を推進する。	○ 高度医療機器の共同利用実績 単位：件									す。したがって、医師の派遣により、県総合医療センターの一部の科の診療実績が落ちて、県全体でみれば、困っているところが助かるわけですから、良しとしていただいてもよいのではないのでしょうか？と昨年記載しましたが、数年来 派遣人員の数は微増している病院もありますが、十分だとは思えません。事実県立下呂温泉病院はずっと困っています。																																
		<table><tr><th>機器名</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>CT</td><td>393</td><td>272</td><td>318</td><td>252</td><td>189</td><td>227</td><td>▲166</td></tr><tr><td>MRI</td><td>290</td><td>286</td><td>309</td><td>274</td><td>237</td><td>315</td><td>+25</td></tr><tr><td>骨密度検査</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td>－</td></tr></table>										機器名	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	CT	393	272	318	252	189	227	▲166	MRI	290	286	309	274	237	315	+25	骨密度検査						0	－
		機器名	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度				増減 (R1→R6)																															
		CT	393	272	318	252	189	227				▲166																															
		MRI	290	286	309	274	237	315				+25																															
		骨密度検査						0				－																															
		○ 開放病床の利用状況及び共同指導回数																																									
		<table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>共同指導 (月平均)</td><td>8.0 回</td><td>2.8 回</td><td>6.0 回</td><td>1.3 回</td><td>1.3 回</td><td>0.8 回</td><td>▲7.2 回</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>48.3%</td><td>37.1%</td><td>29.3%</td><td>14.7%</td><td>21.1%</td><td>40.8%</td><td>▲7.5pt</td></tr></table>										項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	共同指導 (月平均)	8.0 回	2.8 回	6.0 回	1.3 回	1.3 回	0.8 回	▲7.2 回	病床利用率	48.3%	37.1%	29.3%	14.7%	21.1%	40.8%	▲7.5pt								
		項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度				増減 (R1→R6)																															
		共同指導 (月平均)	8.0 回	2.8 回	6.0 回	1.3 回	1.3 回	0.8 回				▲7.2 回																															
		病床利用率	48.3%	37.1%	29.3%	14.7%	21.1%	40.8%				▲7.5pt																															
		○ 輪番制実施状況 単位：日																																									
		<table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>小児</td><td>278</td><td>257</td><td>249</td><td>234</td><td>250</td><td>253</td><td>▲25</td></tr><tr><td>内科・外科系</td><td>85</td><td>66</td><td>84</td><td>72</td><td>99</td><td>99</td><td>+14</td></tr></table>										項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	小児	278	257	249	234	250	253	▲25	内科・外科系	85	66	84	72	99	99	+14								
		項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度				増減 (R1→R6)																															
		小児	278	257	249	234	250	253				▲25																															
内科・外科系	85	66	84	72	99	99	+14																																				
○ ぎふ清流ネット公開状況 (累計) 単位：件																																											
<table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>医療機関数</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>16</td><td>19</td><td>+6</td></tr><tr><td>患者数</td><td>205</td><td>220</td><td>227</td><td>238</td><td>280</td><td>349</td><td>+144</td></tr></table>							項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	医療機関数	13	13	13	13	16	19	+6	患者数	205	220	227	238	280	349	+144													
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																				
医療機関数	13	13	13	13	16	19	+6																																				
患者数	205	220	227	238	280	349	+144																																				
* 人的支援に関する事項																																											
へき地医療拠点病院における医師不足地域の医療機関や医師不足診療科、へき地診療所等への診療支援として、高山赤十字病院、県立下呂温泉病院、郡上市民病院、各国保診療所等への人的支援を継続して実施している。																																											
○ 他の医療機関への人的支援状況 単位：人日																																											
<table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>県立下呂温泉病院※1</td><td>930</td><td>888</td><td>978</td><td>402</td><td>767</td><td>402</td><td>▲528</td></tr></table>							項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	県立下呂温泉病院※1	930	888	978	402	767	402	▲528																					
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																				
県立下呂温泉病院※1	930	888	978	402	767	402	▲528																																				

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価							評価委員会の検証																																																																																												
									自己 評価	評価 提案	意見																																																																																										
		<table><tr><td>高山赤十字病院</td><td>63</td><td>14</td><td>14</td><td>58</td><td>22</td><td>125</td><td>+62</td></tr><tr><td>下呂市立金山病院</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>±0</td></tr><tr><td>県立多治見病院</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>8</td><td>0</td><td>▲3</td></tr><tr><td>国保津保川診療所</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>+12</td></tr><tr><td>国保洞戸診療所</td><td>0</td><td>12</td><td>11</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>±0</td></tr><tr><td>国保久々野診療所※2</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>±0</td></tr><tr><td>郡上市民病院</td><td>50</td><td>49</td><td>46</td><td>41</td><td>0</td><td>0</td><td>▲50</td></tr><tr><td>計</td><td>1,058</td><td>976</td><td>1,063</td><td>530</td><td>821</td><td>551</td><td>▲507</td></tr></table> ※1 退職派遣した専攻医を含む。 ※2 岐阜県へき地医療支援機構依頼分 ＊ へき地医療対策の支援に関する事項 岐阜県へき地医療支援機構の運営に係る業務委託契約は令和2年度で終了したが、当機構からの代診要請に対して対応可能な体制を確保し、依頼があった際には派遣を行った。 また、新専門医制度による専門研修プログラムに基づき、一定期間下呂温泉病院に対して専攻医を退職派遣した。 ○ 下呂温泉病院への派遣状況 単位：人日 <table><tr><td>機関名</td><td>R1 年度</td><td>R2 年度</td><td>R3 年度</td><td>R4 年度</td><td>R5 年度</td><td>R6 年度</td><td>増減 (R1→R6)</td></tr><tr><td>内科医</td><td>732</td><td>730</td><td>942</td><td>366</td><td>732</td><td>378</td><td>▲354</td></tr><tr><td>小児科医</td><td>159</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>▲159</td></tr><tr><td>合計</td><td>891</td><td>730</td><td>942</td><td>366</td><td>732</td><td>378</td><td>▲513</td></tr></table>	高山赤十字病院	63	14	14	58	22	125	+62	下呂市立金山病院	12	12	12	12	12	12	±0	県立多治見病院	3	1	1	4	8	0	▲3	国保津保川診療所	0	0	0	12	12	12	+12	国保洞戸診療所	0	12	11	0	0	0	±0	国保久々野診療所※2	0	0	1	1	0	0	±0	郡上市民病院	50	49	46	41	0	0	▲50	計	1,058	976	1,063	530	821	551	▲507	機関名	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	内科医	732	730	942	366	732	378	▲354	小児科医	159	0	0	0	0	0	▲159	合計	891	730	942	366	732	378	▲513			
高山赤十字病院	63	14	14	58	22	125	+62																																																																																														
下呂市立金山病院	12	12	12	12	12	12	±0																																																																																														
県立多治見病院	3	1	1	4	8	0	▲3																																																																																														
国保津保川診療所	0	0	0	12	12	12	+12																																																																																														
国保洞戸診療所	0	12	11	0	0	0	±0																																																																																														
国保久々野診療所※2	0	0	1	1	0	0	±0																																																																																														
郡上市民病院	50	49	46	41	0	0	▲50																																																																																														
計	1,058	976	1,063	530	821	551	▲507																																																																																														
機関名	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																																														
内科医	732	730	942	366	732	378	▲354																																																																																														
小児科医	159	0	0	0	0	0	▲159																																																																																														
合計	891	730	942	366	732	378	▲513																																																																																														
14	1 大規模災害に対応するための DMAT 体制の確保と訓練・研修 DMAT の複数班体制を維持し、岐阜県内外の DMAT との訓練・研修に派遣することにより、質の向上と維持を図る。 2 大規模災害発生時の DMAT の派遣 大規模災害時における岐阜県の要請に基づき DMAT を派遣する。	＊ 医療救護の協力に関する事項 医師、看護師、業務調整員で構成された災害派遣医療チーム（DMAT）を3班編成し、国主催の訓練等に派遣している。 また、岐阜県地域防災計画に基づく医療救護班を編成し、必要な機能の整備を図っている。 令和6年能登半島地震発生時には、被災地に DMAT や医療従事者（看護師、薬剤師）を派遣し、病院支援や患者搬送支援を行った。加えて、岐阜県に設置された DMAT 調整本部を支援するため、統括 DMAT や小児周産期リエゾンを派遣した。 【DMAT】 派遣者：延べ25名（医師5名、看護師9名、業務調整員11名） 派遣期間：令和6年1月2日～2月3日（延べ21日） 【災害支援ナース】 派遣者：延べ3名（看護師3名） 派遣期間：令和6年1月14日～2月5日（延べ16日） 【看護師派遣（全国自治体病院協議会）】	IV	災害支援ナース、看護師派遣がともに件数が3人はこの規模の公立病院からすると著しく少ないと思います。																																																																																																	

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価	評価委員会の検証																																																																					
		自己 評価	評価 提案	意見																																																																				
		派遣者 : 延べ3名 (看護師3名) 派遣期間 : 令和6年2月1日～3月10日 (延べ20日) 【薬剤師派遣 (公益社団法人日本薬剤師会)】 派遣者 : 延べ3名 (薬剤師3名) 派遣期間 : 令和6年2月4日～3月9日 (延べ15日)																																																																						
23	1業務執行におけるコンプライア ンスの徹底 医療法をはじめとする国の法令や 関係規程、法人が定める倫理方針 や各種規程を遵守することで、保 健所や厚生局からの立入検査及 び指導に適切に対応する。 また、監事監査、内部監査、会計監 査人監査等の実施により、チェッ ク体制を確立し、コンプライア ンスを確実なものとする。 岐阜県情報公開条例に基づく公文 書の公開及び岐阜県個人情報保 護条例その他法人規程に基づく カルテ等医療情報の開示を着実 に行い、医療の透明性を確保す る。	* コンプライアンスの徹底に関する事項 個人情報保護や医療倫理に関する研修を毎年実施し、職員に対して定期的な意識啓発を実施している。令和2年度以降は、オンデマンド形式で実施し、個人情報保護については100%、医療倫理については100%に近い受講率となった。 また、定期的に実施される監事監査、内部監査及び会計監査人監査の実施により、チェック体制を確立し、コンプライアンスの遵守を徹底した。 患者本人又は家族から請求のあったカルテ開示については、保存期間を超えたカルテ開示請求による不存在を理由として開示できないことはあるものの、適切な情報開示を行っている。 ○ 各種研修受講状況 <table><tr><th>項目</th><th></th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td rowspan="2">個人情報保護</td><td>人数</td><td>391 人</td><td>1,055 人</td><td>996 人</td><td>1,192 人</td><td>1,569 人</td><td>1,568</td><td>+1,177 人</td></tr><tr><td>受講率</td><td>24.6%</td><td>70.9%</td><td>67.1%</td><td>82.0%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>+75.4pt</td></tr><tr><td rowspan="2">医療倫理</td><td>人数</td><td>94 人</td><td>1,380 人</td><td>1,430 人</td><td>1,415 人</td><td>1,451 人</td><td>1,301 人</td><td>+1,207 人</td></tr><tr><td>受講率</td><td>5.9%</td><td>99.6%</td><td>99.9%</td><td>97.5%</td><td>97.8%</td><td>82.9%</td><td>+77.0pt</td></tr></table> ○ カルテ開示請求件数・開示件数・開示率 <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td>請求件数</td><td>171</td><td>185</td><td>244</td><td>226</td><td>228</td><td>211</td><td>+40</td></tr><tr><td>開示件数</td><td>153</td><td>180</td><td>234</td><td>223</td><td>217</td><td>203</td><td>+50</td></tr></table> 単位 : 件	項目		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	個人情報保護	人数	391 人	1,055 人	996 人	1,192 人	1,569 人	1,568	+1,177 人	受講率	24.6%	70.9%	67.1%	82.0%	100%	100%	+75.4pt	医療倫理	人数	94 人	1,380 人	1,430 人	1,415 人	1,451 人	1,301 人	+1,207 人	受講率	5.9%	99.6%	99.9%	97.5%	97.8%	82.9%	+77.0pt	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)	請求件数	171	185	244	226	228	211	+40	開示件数	153	180	234	223	217	203	+50	IV		個人情報保護や医療倫理に 関する研修の受講率を飛躍 的に向上させたことは高く 評価できる。
項目		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																
個人情報保護	人数	391 人	1,055 人	996 人	1,192 人	1,569 人	1,568	+1,177 人																																																																
	受講率	24.6%	70.9%	67.1%	82.0%	100%	100%	+75.4pt																																																																
医療倫理	人数	94 人	1,380 人	1,430 人	1,415 人	1,451 人	1,301 人	+1,207 人																																																																
	受講率	5.9%	99.6%	99.9%	97.5%	97.8%	82.9%	+77.0pt																																																																
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																	
請求件数	171	185	244	226	228	211	+40																																																																	
開示件数	153	180	234	223	217	203	+50																																																																	
30	岐阜県及び他の地方独立行政法人 との連携 医師、看護師、コメディカル等の医 療従事者の人事交流等、岐阜県及 び岐阜県が設立した他の地方独 立行政法人との連携を推進する。	* 他法人との連携に関する事項 県及び他の地方独立行政法人との連携については、医療従事者の人事交流を行うなど連携を推進している。 ○ 他法人との人事交流 <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>R5 年度</th><th>R6 年度</th><th>増減 (R1→R6)</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 単位 : 人	項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)									III		連携をより積極的に行って もよいのではないかと。 中期目標には具体的な数値 の記載がないが、IVは中期 目標を上回っていることに なるが、どれだけ低い中期																																																			
項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	増減 (R1→R6)																																																																	

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価								自己 評価	評価委員会の検証	
											評価 提案	意見
		出 向	看護師	0 (1)	0 (2)	1	0	0	1	+1 (▲1)		目標を立てたのか疑問である。医師、看護師、コメディカルの人事交流（実質的には派遣）がこの規模の公立病院としては、極端に少ない。
			コメディカル	0	1	0	1	1	0	±0		
		受 入	看護師・助産師	1	1	0	0	0	0	▲1		
			コメディカル	0	0	0	0	0	0	±0		
※（ ）は岐阜県への退職派遣者数《外数》												